

に住み替えて良かった(結果評価)という感想は人それぞれで、入居している人を対象とした量的な評価ができないと難しいのです。

でも、外面的な評価だけでも住み替えの情報としてはとても有効だと思います。懇談会では図のような案も示されましたが、知れた情報が一目瞭然とまとめられていると思います。もっとも「介護が充実」という内容評価はやはり「要検討」となっています。

住宅を運営する事業者は、むしろこれを参考に「こちらは星5つを目指そう」と取り組んでいただこうです。「生活利便施設が入居者の徒歩圏内にある」という立地条件は仕方ない面もありますが、その他の項目はいずれも住宅の取り組みにより評価を高めることができそうな内容です。まずは自社の住まいがどの程度の評価となるのが、職員の方々に星を付けてもらってみたいかがポイント。

もっとも、福祉サービス第三者評価のように、入居している人を対象としたアンケート調査・聞き取り調査などの手法で「過程・結果」の量的な評価を行い、その内容が公表される仕組みがいくつかは必要になると思います。(北海道高齢者向け住宅事業者協会理事長・奥田龍人)

# 「高齢者住宅」

安心の住まいに向けて

前回紹介した「サービス付き高齢者向け住宅」に関する懇談会(国交省住宅局)では、昨年12月に「高齢者の居住の場の選択の支援」を検討しております。その中には「格付け」とその表示の分かりやすさが議論になっていました。私も以前紹介した「住宅の評価」を作る際に、ミニチュウのように星5つが分かりやすい表記ができればと検討しましたが、評価の妥当性という面で諦めた経緯があります。

システムの評価は豊富な経験と知識があれば可能でしょうが、住宅に関してはなにせ住んだこともない人が評価するのですから、結果は外面的な評価(構造評価)に限りません。その住宅の具体的な内容(過程評価)やこ

## 目指せ星5つ!

選択できる交流 楽しみがある ☆☆☆☆	一般的な住宅設備 備が整っている
生活利便施設が 入居者の徒歩圏 内にある ☆☆☆☆	居住者が楽し んでいる ☆☆☆☆
訪問しやすい環境 が整備されている ☆☆☆☆	介護が充実 ■要検討 ☆☆☆☆
	看取りの実績有 ☆☆☆☆

国交省が作成した住宅評価

第5回「サービス付き高齢者向け住宅」に関する懇談会」資料より

になった。数十年前に取得したヘルパー2級の資格が役にたち、そして、寝たきりのご家族を介護している方々の大変さが身に染み込んでいる。

そして問題は、もし、私(主たる介護者)がコロナに感染したら、濃厚接触者となる父(要介護者)をどうするのかわからないことだ。埼玉県にはいくつかの臨時受け入れ施設はあるが、その数はものすごく少ないし、まったく知らない環境の場所に、一時的とはいえ、入所させるのには不安があるところだ。いろいろなることを考えた1週間だった。

父のコロナ疑念事件で改めて感じたことは、事業所のみならず、個人の苦勞である。特に、一人で外出できる方々に対してサービスを提供している訪問介護サービス、サ高住などの職員の皆さんの大変さは私が想像する以上であると思う。ご近所でもシルバーカーを押した高齢者の方々が自宅の前でマスクなしでお話ししている光景を目にする。耳が遠いせいもあるだろう、その光景は密である。そんなりスクある中で、日々、利用者とその家族のために奮闘していただいている貴様に本当に感謝している。

残念ながら、政府の20年度第3次補正予算案の中には、介護職員への慰労金の再支給は盛り込まれていないようである。コロナ禍で奮闘している皆さんに支援を！と願うばかりである。(終わり)

## 感謝